

【令和5年度 授業改善推進プラン】

板橋区立北野小学校

【算数】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・算数的活動に意欲的に取り組み、できるようになりたいという気持ちのある児童が多い。 ・数学的な表現や処理に関わる技能の習得に大きな個人差が見られる。 ・学習課題に対する自分の考えを書くことに個人差がある。 ・文章題を的確に把握して、解決することができない児童が多い。 ・既習事項や基礎的・基本的な技能が十分に定着していない児童が多い。 ・数量や図形、時間計算、かさ、長さについての意味を知ってはいるものの、それらの感覚が身についておらず、生活経験に結びつかない児童がいる。また、かさや長さの単位換算を苦手とする児童も多い。 ・今年度行った「全国学力・学習状況調査」では、東京都の平均よりも低い結果だった。特に「知識・技能」の観点では都平均より10%近く低い傾向にあった。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・四則計算や作図等の数量についての技能については、繰り返し練習して習熟を図る必要があるが、十分な時間が取れないことが課題である。 ・思考力が必要な文章問題について、文意を読み取ったり、じっくり考えたり、既習事項を活用したりする力をつけさせることが課題である。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を教室に提示したり、学習の開始時に振り返らせたりすることで、児童がもっている知識を活用できるような環境づくりをする。 ・低学年では、数量や図形の実際の感覚を養うために、具体的に体験できる活動を設定したり、具体物や半具体物を操作したりする場面を取り入れていく。また、高学年では、文章問題の題意や場面を正しくとらえることができるように、具体物や半具体物、数直線や図、絵などを効果的に活用した指導を行う。 ・習熟度別にグループを編成し、個別指導を取り入れたりと、個人の実態に合わせた補助教材を活用したりする。 ・問題解決学習では、自力解決の時間を十分に取り入れるだけでなく、友達の意見を聞き、よいと思ったところや自分と同じところ・違うところを伝えるまで行えるよう指導する。 ・家庭学習の時間を利用し、繰り返し練習させたり、復習させたりする。 ・ICT機器を活用して、児童の意見をその場で共有したり、記録を残したりして、考えを深めるのに役立つ。